# 平成２２年度第９回石狩市浜益区地域協議会議事録

日　時：平成２３年１月１９日（水）１６：３０～１７：１０
場　所：浜益支所庁議室
資　料：会議次第
　　資料１：今後の地域づくりへの取り組みについて

＝会議次第＝

１　開　　会
２　あいさつ
３　報　　告
　　１）住宅確保対策について
４　協　　議
　　１）今後の地域づくりへの取り組みについて
　　２）その他
５　そ の 他
６　閉　　会

出席者：１０人、傍聴人：０人

| 委員 | | | 職員 | |
|---|---|---|---|---|
| 役　職 | 氏　　名 | 出欠 | 所　　属 | 氏　　名 |
| 会　長 | 神田　一昭 | ○ | （支所）支所長 | 渡邉　隆之 |
| 副会長 | 岸本　教範 | | （支所）地域振興課地域振興担当主査 | 小島　　工 |
| 委　員 | 笹　　賢一 | ○ | （支所）地域振興課地域振興担当主任 | 須田　　恒 |
| 委　員 | 田中　富子 | | | |
| 委　員 | 大久保満彦 | | | |
| 委　員 | 二本柳辰男 | ○ | | |
| 委　員 | 渡邊真奈美 | | | |
| 委　員 | 渡邉　千秋 | ○ | | |
| 委　員 | 白井かの子 | | | |
| 委　員 | 芦澤　　肇 | ○ | | |
| 委　員 | 三浦　信悦 | ○ | | |
| 委　員 | 佐々木茂雄 | | | |
| 委　員 | 寺山　広司 | ○ | | |

１　開　　会

【小島主査】

只今から平成２２年度第９回浜益区地域協議会を開催いたします。

本日の会議は、住宅確保対策の報告と、今後の地域づくりへの取り組みについて協議を行ってまいりますのでよろしくお願いします。

２　あいさつ

【神田会長】

皆さんお晩でございます。連日の大雪ということで、皆様方には体力的、精神的にもいろいろとお疲れのことと思います。

新年に入りまして、第９回目の地域協議会を開催するわけですけれども、本日は午後５時１０分を目安に会議を進めていきたいと思っております。短時間ではございますが有意義な会議にしたいと思

いますので、ご協力よろしくお願いいたします。
【渡邊支所長】（要旨）
今年の花川地区の降雪量は例年の倍以上であり、浜益区においても連日の大雪で、皆様も除雪等にご苦労されていることと思います。浜益区の降雪量は、１月１８日現在で２５３ｃｍ、昨年同時期では２８６ｃｍと昨年よりやや下回る程度でございます。
浜では、いよいよニシン漁が始まり、今年は例年になく型が大きいということで、トドの被害を受けることなく豊漁になることを期待します。
新年度予算は先日、2回目の市長ヒアリングを終え、地域自治区振興事業等は理事者に十分理解いただいたと思っております。
今日は住宅確保対策の報告と、今後の地域づくりへの取り組みについて協議していきたいと思いますので、委員の皆様の活発な議論をお願いします。

３　報　　告
【小島主査】
１１月の第7回地域協議会におきまして、浜益区の住宅確保対策について地域振興事業ではなく、一般の住宅貸付事業として、浜益中学校が移転するのに伴って空き住宅が出ると、それについて一般の住宅として、対象を絞って担い手支援住宅という位置づけで住宅を貸すということで考えているということでご説明しております。
その後、本庁とも協議を続けてきており、国の交付金事業で過疎地域等自立活性化推進交付金、その中で定住促進空き家活用事業という制度がございまして、新年度、国の概算予算で5億円ほど予算化されているのですけれども、その制度に乗っていけないかなということで協議中です。
住宅確保につきましては、一次産業のほか市社会福祉協議会が市の指定管理者を受けており、いろいろな施設を受け持っているのですが、通勤されている方もかなりいらっしゃるということで、住宅事情のニーズについての聞き取り等をしております。候補である浜益中学校の教職員の住宅については、戸数はあるのですがかなり老朽化が進んでいるため実際のところ使えるところが少ないということもありまして、全体的なニーズには足りないため、教職員住宅を改修して活用するという手法がひとつと、もうひとつは、なんとか民間活力を導入して浜益区の住宅ニーズに対応できないかなというように考えております。こちらの方については、まだその具体的な手法等を煮詰めている段階です。
浜益中学校の浜益高校への移転時期が概ね8月になる予定であり、それ以後の改修になることから、新年度当初予算ではなく、6月の補正で対応したいと考えており、事務的な打ち合わせは進めています。6月補正にこれらの住宅改修に係る費用、それと民間活力を導入した制度、おそらく補助金ということになるかと思うのですけれども、これらについては6月補正で対応するということで進めているということを報告させて頂きます。
【芦澤委員】
過疎対策での補助金確保の見通しはどうですか？
【小島主査】
とりあえず今は手をあげるという段階です。いろいろ用件がありまして、まずは対象となる整備する住宅が3戸以上、1戸に係る改修費が３５０万円以上、掛ける戸数ですね、その対象経費の１/2を交付するということです。しかし当然全体の枠がありますので、該当するかしないかについては今のところ何とも言えない状況です。
今現在の考えでは3戸を対象に、市長も住環境の整備は大切で、組み取り式のトイレではだめだと言っておりますので、浄化槽を設置して、水回りの整備もしてということであれば、当然３５０万円以上はかかると考えており、ある程度の金額になると思います。
【芦澤委員】
浜益の住宅確保について、１２月議会の一般質問で市長が前向き答弁をしているのですよね。とにかくそういう方向で行かないとならないですよね。
【渡邊支所長】
できれば新年度予算ということで話はあったのですけれども、既存の住宅を利用するとなれば、中学校の移転後ということもあり、今回市長の改選の時期も絡むものですから、当初予算は骨組みで、骨格予算にしておいて、あとは6月補正でということで考えております。

４月からすぐスタートしなければならない急ぐ分に関しては、新年度予算に盛り込んでいるのですけれども、補正の中で対応していきたいということです。財源について、まだはっきりしていないのですが、地域振興基金になる場合もあるかもしれませんので、そういう部分でご相談するかもしれません。
【神田会長】
浜益中学校の教員住宅を改修するのはいいのですが、浜益区に公営住宅の建設計画は無いのですか？
【渡邊支所長】
公営住宅については、計画で市全体での戸数が決められており、計画自体にはまだ盛り込まれていません。
【神田会長】
合併に伴って広範囲になっているし、花川の公営住宅から浜益区へ通えというのは無理があるのでは…。
群別地区にある公営住宅（ぐらいの規模を）を１棟ぐらい計画してほしいですね。
【渡邊支所長】
公営住宅で出来ませんかという話はしているのですけれど、現在の計画そのものの見直しの時期等の関係もありますし、いますぐという事にはならないです。
【芦澤委員】
厚田区は公営住宅の数では、浜益と比べて沢山ありますよね。
【小島主査】
浜益区は１２戸ですが厚田区は１００戸近くあります。建築課でもバランスが悪いというのは理解しているのですけれども、公営住宅ストック計画というのがあり、それに新たに建てるという事は盛り込まれていないのです。
【三浦委員】
人口が減少している中での財政サイドの考え方ですよね。
【寺山委員】
けれど、住宅があれば人が来る可能性もありますよね。
【小島主査】
もちろんその可能性はあると思います。
【神田会長】
人口が現状維持もしくは右肩下がりになってきているのに、このように住宅を改修しなければならないという事業を今考えているという事は、住宅が不足しているという事なのですよ。ですからこういう事業を考えなければならないのだから、その段階で築３０年、４０年を経た住宅を改修するといっても、かなりの費用がかかることとなるのでは？
【小島主査】
校長住宅が昭和５７年築、教頭住宅が平成元年築ですね。その他は昭和４３年と昭和４５年築です。
【芦澤委員】
公営住宅が先延ばしにされるのであれば、この過疎対策でとりあえず急を要する人達の分は確保するのと、二段構えで公営住宅も必要なのでは？
【神田会長】
やはり、公営住宅の必要性を訴えて行くことも必要だと思います。
住宅確保対策については、現在事務を進めているという事で理解したいと思いますがいかがですか？
【委員多数】
はい。

４　協　　議
【小島主査】
本年度アドバイザー招聘事業でワークショップを開催した結果から、現在の浜益区の現状及びキーワ

ードが出てまいりました。その中のキーワードとして、高齢社会、観光業、それから一次産業、これは漁業、農畜産業という三つがキーワードとして挙げられております。それを踏まえて浜益区の将来像、ビジョンの明確化ということで、高齢社会においては高齢者が暮らしやすいまち、高齢者が社会に参加し、元気に暮らせる地域を目指すという事ですね。観光業につきましては、豊かな食の田舎暮らし、観光サービスを加えて交流人口を増やすという将来像です。一次産業につきましては、一次産業の付加価値の向上、海産物や農畜産物のブランド化による付加価値向上で、儲かる地域というのが将来像として出されております。

ですが今後の取り組みとして、今後実際にどう取り組んでいくのかということについては、明確なものが出されておりません。本日の地域協議会においては、今後の地域づくりへの取り組みについて、実際にどう取り組むかという部分について、地域協議会の委員の皆様からの意見を出していただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【芦澤委員】

これから5カ年計画をたてる、漁業振興計画の案というのはいつオープンになるのでしょう？

【小島主査】

原案が手元に来ております。

【芦澤委員】

それが漁業関係者はまだ分からないのですよね。

【神田会長】

これは漁業者とかが集まって意見交換など行った結果の計画なのかな？

【小島主査】

計画を策定するにあたって、漁業者にアンケートを実施しています。かなりの範囲でアンケート調査をやっています。

【渡邊支所長】

石狩市漁業振興計画、検討関係機関連絡会議の構成メンバーとして石狩湾漁業協同組合専務理事、参事、石狩支所長、浜益支所長、北海道産業振興部水産室長、石狩地区水産技術普及指導所、指導漁業士、漁協理事、青年漁業士、漁協青年部連絡協議会会長、指導漁業士として漁協女性部連絡協議会長、浜益区からは女性部で田中さん、厚田区は上山さんが出ていましたね。石狩市の企画経済部長、農林水産課長、厚田支所の地域振興課長、浜益区の地域振興課長、そういうメンバーで5回の検討会議を重ねています。そのなかでアンケート調査とか、様々な専門機関からの意見等をもらったりして、計画の案として策定しています。

中身としては、まずは1番目が漁業振興計画策定に向けてということで石狩市の漁業の概要、それから石狩市の漁業の現状、漁業権区域、漁業の経営状況、漁業生産の状況、漁港の関係、水産基盤整備事業、アンケートの集計結果、まとめですね。それらを整理して課題の抽出、それに対する漁業振興対策、基本方針と施策の体系とその方向性、それを進めていくための重点推進プロジェクト（企画）、そういった部分が網羅されています。課題の抽出と振興対策部分で会議に出席でしたけれども。

【芦澤委員】

今後、実施計画というのを作るのですか？

【渡邊支所長】

実施計画を作るかどうかは分かりませんが、振興計画の項目としては、例えば漁業振興対策として、作り育てる漁業の推進として鮭の資源、ウニ増殖対策、ニシンの稚魚放流、ナマコの種苗放流、ハタハタの増殖対策、産卵、藻場造成、規制措置による資源管理などが挙がっています。

その他、漁場環境の保全として密漁防止対策だとか、磯焼け対策、その他に5点程ありますけれども、漁港施設の整備、地元水産物の消費対策、商品化の強化、販路の対応化ＰＲ、知名度ＵＰだとか学校給食への充当提供。漁港漁村の活性化として都市との交流促進、レジャー産業としての連携、港朝市関係、漁業就業者の確保ということで新規就業者の受け入れ体制への整備、これには当然、住宅等も入ってくると思います。それと漁業後継者の育成支援、パート労働者の確保、漁業経営の支援、生活環境の改善、安全操業の推進、そういった部分が網羅されております。

【芦澤委員】

パブリックコメントを閲覧するのには、浜益コミセンでは出来ないのですか？

【小島主査】
いまは支所地域振興課だけです。意見提出方法については決まりがありません。様式もないのでどのような方法で、文章、ＦＡＸ、メール、音声ファイル、録音テープでも意見が出せます。
【神田会長】
昔から「過疎につける薬はない」と言われますけれど、とにかく人口が増加していくのは、そこに住む人が仕事にありつけるから、どんなに不便な所でも住むのだしね。
【渡邊支所長】
まず働く場所の確保ですね。たしかに福祉施設等高齢者向けの物は良いかもしれないけれど、それは単に現状保持だけですので。そういった産業の新たな部分、それから今ある部分をさらに活性化していく部分も必要だろうし、実際に高齢化している人達の対応もしていかなければならないですね。
【神田会長】
今後の地域づくりへの取り組みについては、今後も皆さんで協議していくということでよろしいでしょうか？
【委員全員】
はい。
【小島主査】
その他ですが、年末の１２月に道新の近郊版で床丹に関する特集記事が3回連続掲載されました。2年前に小規模集落の生活実態調査ということで、当時人口３０人未満の雄冬、千代志別、床丹、送毛、後料地とこの5地区について、生活の現状について調査させてもらいました。今回、床丹の記事について、結構反響が大きくて、実際のところそこに住んでいる人達の生活支援について、2年たっていることもあり、その方々が本当に望むサービスとはどうなのかと、実際の生活実態はどうなのかということで、支所として改めて方策を考えた方がいいのではないかということで、もう一度調査に入ろうと考えております。
実際に記事にもありました移動販売車が無くなったらどうするですとか、高齢者の独り暮らしの方々が多いものですから、前回の地域協議会でも大久保委員が言っていたのですが、日常のちょっとした困りごと、例えば電球の球切れたとか、水道がちょっと漏っているとか、そういうようなちょっとした困りごとなんかを、実際にその人達がどういうふうに対処しているのかというところを、私どもで改めて調査に入って、方策を考えたいと考えています。
【渡邊支所長】
床丹等の小規模集落だけでなく、他の地区でもそういった高齢者世帯ではなかなか人に頼みづらい等の部分があると思うのです。大きな地区については例えば自治会だとか、民生委員だとかそういう人達がフォローして、当然貰っているのだろうと思っているのですけれど、そういう部分の話を委員の皆様方から聞かせていただければと思いますけれど。小さい集落で高齢化率１００％ということで全員がお年寄りという地区もありますので、助け合いも難しいということもありますけれども。
【神田会長】
床丹だけでなく、千代志別、送毛も若い人は1人ぐらいしかいませんよね。
【寺山委員】
送毛は、夏は人がすごく増えるのですよ。冬は1軒か2軒ぐらいしかいないのですけれど、夏場だけでいうと１０軒以上帰ってきているのですよ、逆に言うと自分たちは不便と思っているのですけれど、その人達はそれを楽しんでいるみたいな感じでいるので、それもいいのかなと思うのですよね。
【神田会長】
元住民ですか、夏は別荘代わりにしてかなりの方々が来ていますよね。
【小島主査】
いずれにしても、小規模集落について私どものイメージではそんなに日常生活に困っていないのかなと思うのですが、ああいう形で新聞報道されますと、やはりそういうふうに受け止められている方も多々いらっしゃるということで、実際のところもう一度地区に入ってお話を聞いてみようかなと考えています。
【渡邊（千）委員】
普段生活しているときって、そんなに不便って感じないと思うのですよね。何かあった時に「ああ」

と思うのですよね。
【神田会長】
実際住んでいる人たちの気持ちと、都会に住んでいる新聞記者のとらえ方の違いというかね。
【寺山委員】
先日、小規模集落というか過疎地域とで亡くなった方いますけど、救急車を呼んでいるのですが診療所に着くまで冬ですし、1時間とかかかるのですよね。そんなときにこの様な地区って大変なのだなというのはすごく感じましたね。そういうのってどうしようもないのかも知れないのですけれど、救急医療ですか、なにか手立てがないかと感じましたね。
【神田会長】
小規模集落に関しては、支所の方でも現地に入って調査するということですが、社会福祉協議会等の専門分野があるのですから、もう少し考えていただきたいと思います。

5　そ　の　他
【小島主査】
次回開催案ですが、3月24日木曜日午後6時と考えております。

6　閉　　会
【神田会長】
それでは時期開催は3月24日木曜日午後6時からです。以上をもちまして第9回浜益区地域協議会を閉会いたします。ご苦労様でした。

平成23年2月17日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会
会長　神　田　一　昭